

■曾宮一念 洋画家、随筆家、歌人。画家として名を成すも高齢になって失明、短歌とエッセイに全力注ぎ100歳に。

そみやいちねん

郡司千島探検1893＝ 東京市日本橋区浜町翁堂で、下田喜平・きみの子に生まれ、
日清戦争始・1894＝ 1歳： 曾宮禄祐・和歌の養子となる。

子規句歌革新1898＝ 5歳： 日本橋区阪本幼稚園に入園。
Bushidou・・1899＝ 6歳： 霊岸島小学校に入学。

初めて図画の写生法を知る。

教科書疑獄・1902＝ 9歳：

日露戦争始・1904＝11歳： 芝区神明町に転居し、桜川小学校高等科に編入。
日露戦争終・1905＝12歳：
満鉄発足・・1906＝13歳： 淀橋小学校を卒業し、早稲田中学に入学。美育部に所属し、

アヲヲ創刊・ 1908＝15歳： 水彩画会研究所の日曜教室でも水彩画を学び、

北海道大学林学部への進学を志望していたが、
大逆事件判決1911＝18歳： 養父の希望で、卒業とともに、東京美術学校西洋画科に進学。初の油彩「工部大学跡」を描く。
明治天皇没・1912＝19歳：
大正政変・・1913＝20歳： 光風会展に「桑畑」が入選。養父から一念の号を贈られた後、養父が死去。
第一次大戦始1914＝21歳： 養母と下谷に転居し、*今村繁三の援助を受けるようになり、文展に「酒倉」初入選。

民本主義・・1916＝23歳： 今村の新年会で中村彝を知り以後兄事。中原悌二郎も知る。卒業して、研究科に進み、成蹊中学講師、

本格政党内閣1918＝25歳： 結婚し、兵庫県西宮の妻の実家に滞在後、福島県石川町の私立中学に赴任。
ベルサイユ条約・1919＝26歳： 中村彝の勧めで、同じ東京下落合に転居。光風会展で「娘」が今村奨励賞。
大暴落・・・1920＝27歳： ロシアの盲目詩人エロシェンコに出会う。
原敬首相暗殺1921＝28歳： 長男が誕生。近所にアトリエ新築。二科展に出品し始め「静かなる曇り日」が初入選。自宅で、近所の鶴田五郎と画塾{どんたくの会}始める。
水平社結成・1922＝29歳： 中村彝・寺内萬次郎らと{金塔社}結成。平和博覧会に「芍薬」入選。
関東大震災・1923＝30歳： 会津八一を案内して中村を見舞い、八一からの「南京新唱」表紙画依頼は辞退。小出檜重を訪ねる。
護憲三派圧勝1924＝31歳： 中村の葬儀に参列し、遺稿集「芸術の無限感」の編集に当る。
治安維持法・1925＝32歳： 翌年にかけて旧制静岡高校講師。*二科展で「冬日」「荒園」「晩秋風景」で樗牛賞受賞。
円本時代始・1926＝33歳： 美術学校同窓生ほかで{柘榴社}結成。
金融恐慌・・1927＝34歳： 結核で、サナトリウム富士見高原療養所に入るとともに、今村の援助も止まって、窮乏し、
世界恐慌・・1929＝36歳： 熊谷守一ら友人が{一念会}寄贈画展を開いてくれる。
海軍軍縮条約1930＝37歳： 離婚。
満州事変・・1931＝38歳： 第二次画塾{どんたくの会}を発足。二科会会員に推挙されるも、
五一五事件・1932＝39歳： 二科展に「かれはなばたけ」「いちぢく」出品。

帝人疑獄事件1934＝41歳： 退会し、無所属となる。
芥川直木賞始1935＝42歳： 再婚。独立美術協会会員となり、「種子植物」「ざぼん」出品。「曾宮一念画集1,2」が刊行される。
二二六事件・1936＝43歳： 独立展に「冬の海仁科」「波太」出品。
日中戦争始・1937＝44歳： カリエスの疑いで、翌年にかけて富士見高原療養所に入院。
健保+総動員 1938＝45歳： 文筆もよくし、随筆集「いはの群」刊行。「曾宮一念画集3」が刊行される。

日米開戦・・1941＝48歳： 安井曾太郎らとの渌晨会展を開催。
・・・・・1942＝49歳： 素描集「すその」刊行。
創価学会検挙1943＝50歳： 長女が誕生。長男が応召。*随筆集「夕ばえ」刊行し、中学教科書に採用される。
年金+総武装 1944＝51歳： 静岡県に疎開。
敗戦・・・1945＝52歳： 長男が戦死。
新憲法公布・1946＝53歳： 戦後、再興国画会に入会。日展審査員となり、日展に「麦」出品。
新憲法施行・1947＝54歳：
極東裁判決・1948＝55歳： 随筆集「すそ野」刊行、
三大事件・・1949＝56歳： 鹿児島県の桜島を訪れ、以後、「火の山巡礼」始まる。

独立回復・・1951＝58歳：
マデラ事件・ 1952＝59歳： 「神の中の蜘蛛」刊行。浜松で、作品頒布会。
55年体制始・1955＝62歳： 「榛の畦みち」刊行。
国連加盟・・1956＝63歳：
なべ底不況・1957＝64歳： 国画会展に「南岳爆発」出品。
インサニティ・1958＝65歳： 随筆「海辺の熔岩」刊行し、山の文芸誌{アルプ}に出稿始め、
美智子妃・・1959＝66歳： 日本エッセイストクラブ賞。緑内障により右眼失明。
安保闘争・・1960＝67歳： 長野県富士見町に山荘を建設。
タイタイ病始・1961＝68歳： 鹿児島市立美術館で展覧会。「現代作家デッサン集曾宮一念」刊行される。
全国総合計画1962＝69歳： 「日曜随筆家」刊行。串田孫一と上高地・焼岳旅行。
TV宇宙中継始1963＝70歳： 右眼摘出手術。
東京オリンピック 1964＝71歳： 「泥鰌のわた」刊行、
大学紛争始・1965＝72歳： 国画会に「平野夕映え」出品後、視力障害により退会。以後無所属となり孤高を保つ。
いざなぎ景気1966＝73歳： 「曾宮一念作品集」刊行。
美濃部都知事1967＝74歳： 「東京回顧」刊行。翌年につけて、海路でヨーロッパ旅行。
震ヶ関バトル・ 1968＝75歳： 随筆集「紅と灰色」刊行。
全共闘バトル・1969＝76歳： 画集「紅と灰色」刊行。
大阪万博・・1970＝77歳： 画集「火の山」刊行。
トルジョック・・ 1971＝78歳： 両眼失明して画業廃業、以後、かつて訪れた日本各地を思い出しながら歌を詠み、
日中国交回復1972＝79歳： 「白樺の杖」以降も、毎年のように刊行を続け、
石油ショック1973＝80歳： 文芸春秋画廊で「曾宮一念書画展」、以後各地で展覧会が開かれ、
角栄金脈辞任1974＝81歳：
ドイツユーラント 1983＝90歳： 歌集「へなぶり火の山」、
ジャンボ機墜落1985＝92歳： 「武蔵野挽歌」を刊行。
昭和天皇没・1989＝96歳： 「にせ家常茶飯」までエッセイ集を計16冊出し、
バブル崩壊・1992＝99歳： 「画業は廃業」、画文集「九十九の店じまい」を刊行し、
1993＝100歳： *常葉美術館での「曾宮一念百寿展」を最後に、
自社さ連立・1994＝101歳： 心不全で、没した。
直後に、妻も死去。

インターネットWikipedia、